

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	木/Thu 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/01/14		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022102	科目番号 / Subject code	05860221
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (前近代の日本と世界)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	木村 直樹		
授業担当教員名(科目責任者) / Professor in charge of the subject	木村 直樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等) / Professor(s)	木村 直樹		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟43		
対象学生(クラス等) / Object Student	1年, 2年, 3年, 4年		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	n-kimura@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部1号館1階		
担当教員TEL/Tel	095-819-2914		
担当教員オフィスアワー/Office hours	水曜日3校時		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	明治時代より前の日本を前近代の日本と言う。近年の前近代の日本列島と世界に関わる研究のトピクスをとりあげ、日本を取り巻く世界と大きく相互に影響しているという視点から、日本の国家・社会が形成されていったことを学ぶ。特に、近世(江戸時代)の海外からの技術の受容という話題も盛り込む予定であるので、技術と社会についても考えるきっかけとなしてほしい。		
授業到達目標/Goal	前近代における日本社会の発展は、海外との関係ぬきにしては成り立たなかったことを具体的に理解する。		
授業方法(学習指導法)/Method	講義形式を中心とする。		
授業内容/Class outline/Con			
キーワード/Key word	日本史 長崎学 技術と社会 対外交流		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	講義中に随時紹介していく		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	講義期間中に提出する小課題(40%)と定期試験(60%)の合計		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	ガイダンス 日本の国家形成と東アジア世界		
第2回	渤海と刀伊		
第3回	平氏政権・蒙古襲来		
第4回	日本国王源道義と倭寇		
第5回	銀・鉄砲・キリスト教		
第6回	近世国家の特質 兵営国家をめぐる		
第7回	4つの口 長崎		
第8回	4つの口 蝦夷地		
第9回	4つの口 琉球		
第10回	4つの口 対馬		
第11回	翻訳の試行錯誤と技術		
第12回	大砲・小銃と社会		
第13回	和船から西洋型艦船へ		
第14回	病との闘い		
第15回	鉱山・冶金の世界 まとめ		



学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金/Fri 1
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022502	科目番号 / Subject code	05860225
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (近現代のアジアと日本)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	首藤 明和		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	首藤 明和		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	首藤 明和		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟43		
対象学生 (クラス等) / Object Student	医・歯・工・環境		
担当教員Eメールアドレス/E-mail address	shuto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室/Laboratory	多文化社会学部 1号棟 首藤研究室		
担当教員TEL/Tel	095-819-2921		
担当教員オフィスアワー/Office hours	木曜日 3校時		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	19世紀前半から今日のグローバリゼーションに至るまでの東アジアと日本の変遷を学ぶ。特に、今後の共生社会(相互の承認と支援に基づく「誰もが居場所のある社会」)を構想し実践するための理論と方法を、東アジアおよび日本の家族のあり方、コミュニティ(村落、教会やモスク)、市民社会(NPOやボランティアなどの市民活動)、民族などの具体的な姿を通して考察する。		
授業到達目標/Goal	東アジアの近代化やグローバリゼーションにおける歴史・現状・課題を、社会・文化・政治・経済・コミュニケーションなどから体系的、且つ、クリティカルに理解できるようになる( )。同時に、共生社会を実現していくために、受講生自身の社会認識、問題意識、実践計画のあり方を、自らのポジショナリティに自覚的ななかで理解できるようになる( )。さらには、それらを他者へ伝えることのできる説明力を身に着ける( )。		
授業方法(学習指導法)/Method	受講生の問題関心や講義内容に対する理解度を把握するために、コミュニケーションカード(授業の感想や質問等を記入)を通じた意思疎通を図る。受講生から出された感想や質問は、具体的なコメントを行うと同時に、次の授業の内容にフィードバックしていく。		
授業内容/Class outline/Con	第一に、アジア社会の近代化をハイブリッドモダン論から考察する。第二に、帝国主義、植民地主義、ポストコロニアリズムを経てグローバリゼーションの時代へと至るなかでの社会と文化の変容の把握に努める。第三に、私たち自身の既存のアジア認識を揺さぶるために、ドミナント・ストーリー(ナショナル・ヒストリー)によって周辺化されたユニークなエピソード(少数民族や漂泊の民など)に着目する。第四に、これらの議論を踏まえて、生命の尊厳を基調とした共生社会の構想と実現に向けた理論と方法を考える。		
キーワード/Key word	グローバリゼーション, 家族, コミュニティ, 市民社会, 民族, 共生社会		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	授業の事前に資料を配布する。参考書は授業の中で適宜、紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	期末筆記試験(80%), 授業のなかで実施するコミュニケーションカードの提出(20%)		
学生へのメッセージ/Message for students	自分自身のライフの礎となるような、骨太な問題意識や価値観を発見したり掘り下げたりしてみませんか。大学の講義らしく、専門的な知見に基づいた批判的・論理的思考を通じて、皆さん自身のライフが豊かなものになるようサポートできればと思います。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	東アジアの近代化をハイブリッドモダン論から考察することの目的と意義		
第2回	東アジアにおけるモダニティの移植と現地化		
第3回	帝国主義, 植民地主義, ポストコロニアリズムを経てグローバリゼーションの時代へ		
第4回	親密圏の変容(1) 東アジアにおける家族のケア労働(育児・家事・介護)		
第5回	親密圏の変容(2) 日本と中国の家族制度		
第6回	親密圏の変容(3) 日本の「ひきこもり」と中国の「空巢家庭」		
第7回	市場経済(職業労働) 日本の「ネットカフェ難民」と中国の「蟻族」		
第8回	政治的公共圏 公共性(common, official, open)の日中比較		
第9回	新中間層の生成と変容 日本, 中国, 香港, カナダ華人にみる意識と行動		
第10回	市民活動 日本のNPOと中国の民間組織にみる親密圏・政治的公共圏の再編		

第11回	中国の「民族」 回族からみる「国家主権」と「在民主権」
第12回	「国民」になるということ
第13回	「漂泊の民」が照射するハイブリッドモダンの人間類型と文化規範
第14回	アジア共生の作法(1) 阪神大震災, 四川大地震, 東日本大震災からみえてくるもの
第15回	アジア共生の作法(2) 生命の尊厳を基調とした“Simple” is “best” な社会の構想
第16回	筆記試験

学期 / Semester	2015年度 / Academic Year 後期 / Second Semester	曜日・校時 / Day・Period	金 / Fri 2
開講期間 / Class period	2015/09/28 ~ 2016/03/31		
必修選択 / Required/Elective class	選択	単位数(一般/編入/留学) / Credits (general/admission/overseas)	2.0/2.0/2.0
時間割コード / Time schedule code	20150586022902	科目番号 / Subject code	05860229
科目ナンバリングコード / Numbering Code			
授業科目名 / Subject	日本を知り、世界を知る (人々の暮らしから見る現代日本)		
編集担当教員 / Professor in charge of putting together the course syllabus	才津 祐美子		
授業担当教員名 (科目責任者) / Professor in charge of the subject	才津 祐美子		
授業担当教員名 (オムニバス科目等) / Professor(s)	才津 祐美子		
科目分類 / Class type	全学モジュール 科目		
対象年次 / Year	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態 / Class form	講義
教室 / Class room	教養教育A棟43		
担当教員研究室/Laboratory			
担当教員オフィスアワー/Office hours	火曜日 14:30 - 16:00		
授業の概要及び位置づけ/Course Outline and Objectives	われわれはよく「日本(文化)」という表現を用いるが、果たしてそれはどのようなものを指しているのだろうか。本講義では、日本の文化 - とりわけ人々の暮らしにまつわる文化を研究してきた民俗学の観点から、日本における文化の類似と相違、あるいは継承と断絶について考察することで、今まで何気なく接してきたであろう身の回りの文化の再認識を目指す。		
授業到達目標/Goal	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本民俗学の成立過程や研究方法、研究対象について説明できる。</li> <li>・日本人の暮らしの変化について説明できる。</li> <li>・地域文化の多様性について説明できる。</li> <li>・今まで何気なく接してきた身の回りの民俗(文化)に気づき、目を向けるようになる。</li> </ul>		
授業方法(学習指導法)/Method	講義形式による。ただし、毎回授業の最後に内容に対する意見や感想、質問等を書いてもらい、担当教員が次回の授業の冒頭でそれについて回答するなどして、なるべく双方向授業となるよう心がける。また、授業では内容理解の助けとなるよう適宜視聴覚教材を用いる。さらに、講義資料の提示やレポートの提出等にはLACSを活用する。		
授業内容/Class outline/Con	<p>授業内容(概要)</p> <p>本講義では、まず民俗学の成立過程や研究方法について概説する。次に、民俗学の研究対象について具体的な事例を見ていくことで、日本における文化の類似と相違、あるいは継承と断絶について考察する。また、現在の状況は民俗学が成立した際のそれとはかなり変化してきているため、そうした変化についても意識的に言及していく。</p>		
キーワード/Key word	民俗学、日本、地域、文化、暮らし		
教科書・教材・参考書/Textbook, Teaching material, and Reference book	基本的にはLACSを用いて講義資料を配布する。参考文献に関しては、講義内で適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等/Evaluation	ミニツッペーパー(30点)、小レポート(20点)、期末試験(50点)		
受講要件(履修条件)/Requirements	毎回授業の最後に提出するミニツッペーパーを利用して、積極的に授業に参加すること。また、小レポートでは家族へのインタビューもしてもらう予定である。		
学生へのメッセージ/Message for students	本授業を日本あるいは自分自身を相対化するきっかけにしてもらえればと思います。		
授業計画詳細			
回(日時) / Time(date and time)	授業内容 / Contents		
第1回	本講義をはじめの前に 「文化」再考		
第2回	「民俗学」って何だろう？		
第3回	民俗学の先達者		
第4回	民俗学の研究方法		
第5回	民俗学の研究方法		
第6回	イエ		
第7回	ムラと社会組織		
第8回	年齢集団		

第9回	年中行事
第10回	通過儀礼
第11回	カミとヒト - 宗教および世界観 -
第12回	民俗と民俗学の現在
第13回	祭りを事例とした民俗の変容・創造・伝播
第14回	祭りを事例とした民俗の変容・創造・伝播
第15回	講義全体の総括
第16回	定期試験